

はぐく

「生きる力を育む 小平市のこれから特別活動」

小平市第四次長期総合計画における目指す将来像 つながり、共に創るまち こだいら

基本目標1（ひとづくり）

人が育ち、学び、新たな価値を創造するまち

基本目標2（くらしづくり）

多様性を認め合い、つながり、共生するまち

基本目標3（まちづくり）

自然と調和した、美しく快適で、魅力あるまち

第二次小平市教育振興基本計画における目指す人間像

社会的に**自立**し、地域・社会に**貢献**しながら、

他者と**共生**する人

自立　自分で考え、判断し、行動できる

貢献　地域や社会に愛着を持ち、自分にできる
ことを考える

共生　他者を認め、良好な関係を築く

特別活動における3つの視点

人間関係形成

社会参画

自己実現

小平市で掲げている目指す 将来像や人間像と特別活動との関係

- ・多様性を認め合い、つながり、共生するまち
- ・他者を認め、良好な関係を築く
- ・自然と調和した、美しく快適で、魅力あるまち
- ・地域や社会に愛着を持ち、自分にできることを考える
- ・人が育ち、学び、新たな価値を創造するまち
- ・自分で考え、判断し、行動できる

人間関係形成

社会参画

自己実現

学習指導要領上の位置付け

小学校

- ◇各教科（国語 社会 算数 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 体育 外国語）
- ◇特別の教科 道徳
- ◇外国語活動
- ◇総合的な学習の時間
- ◇特別活動 →学級活動 34～35時間
 - 児童会活動
 - クラブ活動
 - 学校行事

中学校

- ◇各教科（国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語）
- ◇特別の教科 道徳
- ◇総合的な学習の時間
- ◇特別活動 →学級活動 35時間
 - 生徒会活動
 - 学校行事

学級活動の2つの話し合い活動

①自発的、自治的な話し合い活動

児童生徒が自ら課題を見出し、その解決方法などについて集団討議し合意形成を図る

②自主的、実践的な話し合い活動

学級や学校の成員に共通する課題を題材にして、教師の指導を中心とした活動形態で、生徒が集団思考をして意思決定する

小平市の特別活動の推進の背景

- 小平市で掲げている目指す将来像や人間像と特別活動における3つの視点がつながっている
- ・特別活動（特に学級活動）の理解と実践には、教員によって差がある
- ・特別活動における小・中学校の連携を図りたい
- ・不登校・いじめを生じさせない環境づくりのための発達支持的生徒指導としての特別活動の推進が必要
- ・コロナ禍におけるコミュニケーションの減少が課題 等



小平市内公立小・中学校全校で特別活動を推進

特別活動の推進に向けて（教育委員会の取組）

特別活動を推進する意義等の理解

- ・市内全教員対象の合同研修会

特別活動を推進する市内への広報

- ・市内教員や指導主事などで構成する特別活動担当プロジェクトチームの設置
- ・資料提供（指導計画、話し合いグッズなど）
- ・「ポスター」「とっかつだより」などの作成・配信

他

特別活動の推進に向けて（各学校の取組）

教員の指導力向上と地域・保護者への広報

- ・学級活動のモデル授業の公開（2校で実施）
- ・各学校の学校だより等で保護者・地域に発信
- ・校内での研究・研修
- ・端末を活用して資料等を教員間で共有
(指導計画や学級会で活用するグッズ等)

他

「こだいら特別活動の日」

毎年6月第二土曜日に設定
市内公立小中学校全校で実施

学級活動(1)の話し合い活動を授業公開

<午前>全27校 約500学級で
児童会・生徒会サミット
<午後>代表児童・生徒57人による

※数字は令和7年度

児童会・生徒会サミットのテーマ

令和6年度

「自分も人も大切にできる学校づくり」

令和7年度

「自分たちが住む地域のために
何ができるか考えよう」

「こだいら特別活動の日」の目的

- ・ 人格的、社会的な自立を培い、自主的、実践的な態度をはぐくむ基盤となる特別活動の充実を図る。
- ・ 保護者、地域に、学級、学校経営についての理解促進を図る。
- ・ 児童・生徒が意見の違いを超え、よさを生かしながら合意形成を図ったり、意思決定したりする活動を通して、問題解決に関わる実践的な力を育てる。

「こだいら特別活動の日」に期待すること

- 小・中学校における特別活動の充実
- 自分も人も大切にできる児童・生徒の育成
(自尊感情や自己肯定感を高める)
- 児童・生徒の自主的・実践的な態度の育成
- 児童・生徒の話し合い活動の力の育成
(合意形成や意思決定をする力)
- 児童・生徒の異年齢交流等による人間関係構築力の育成
- 教師の特別活動の指導技術の向上

サミット後の各校での活動

- ・「花いっぱい」の学校環境づくり
- ・小中合同あいさつウィークの実施
- ・小・中学校の授業交流
- ・「いじめゼロサミット」の開催
- ・「人権集会」の開催
- ・「あいさつポスター」の作成
- ・人権の歌を作成
- ・全校一斉あいさつ運動の実施
- ・ふわふわ言葉ウィークの実施

児童・生徒
による
提案
企画
運営

成果と課題

教員、校長の声

- ・「こだいら特別活動の日」の設定で、市内小中学校が同じベクトルをもって人権教育を推進することができた。
- ・ベテラン教員も改めて学級会のやり方を学べる機会となった。
- ・市が示した学級会の進め方モデルやグッズの共有が大変助かった。
そのため、抵抗感なく行えた。
- ・特別活動の取組が他教科へ広がっている。
- ・多数決で決めない、少数意見も大事にする、折り合いを付けるなどの指導をOJTで取り組んだ。
- ・子どもたちが、意見をすることに抵抗感がなくなった。
- ・否定的な意見が減少し、相手の意見を受け止めるようになった。
- ・安定した学級経営ができるようになった。
- ・子どもたちが主体的に活動するようになった。

教員、校長の声

- ・自分たちで企画する強さがでてきた。
- ・こども会議でいろいろな案が出され、実践できている。
- ・クラスメイト同士が温かく見守ったり、フォローしたりすることが自然に行動できるようになった実感がある。
- ・特別支援学級で、通常学級との交流・共同学習に役立っている。
- ・学級活動の実践で学習意欲が高まった。

▲主題を各校で具体化していくことが課題である。

▲児童会・生徒会サミットに向けて、もっと全校で指導を行い、準備した上で実施できれば、有意義な時間になると思う。

▲児童会・生徒会サミットはせっかく全体で集まる機会があるので、具体的に一緒に活動できるものを決められるとよかったです。

児童・生徒の声

- ・自分の意見を出し合い、よりよいものにしていくことの大切さを改めて学べました。
- ・それぞれの学校で言葉は違っても、目指している部分は同じようなものだった。生徒と町の人でよりよい小平市にしていきたい。
- ・地域について考えたり話し合って、たくさんの意見を飛び交って、とても楽しい話合いでした。今回話し合った内容を学校の皆さんに広めていきたい。
- ・地域について考えたり話し合ったりして、自分が地域のためにできることを、学校の代表として意見を言えたので良かったです。私は小平市を成り立たせてくれている方々に感謝しようと思いました。

アンケート調査

調査対象 小学校4年生～中学校3年生

調査時期 ①令和6年度1回目 (R 6. 5)

②令和6年度2回目 (R 7. 1)

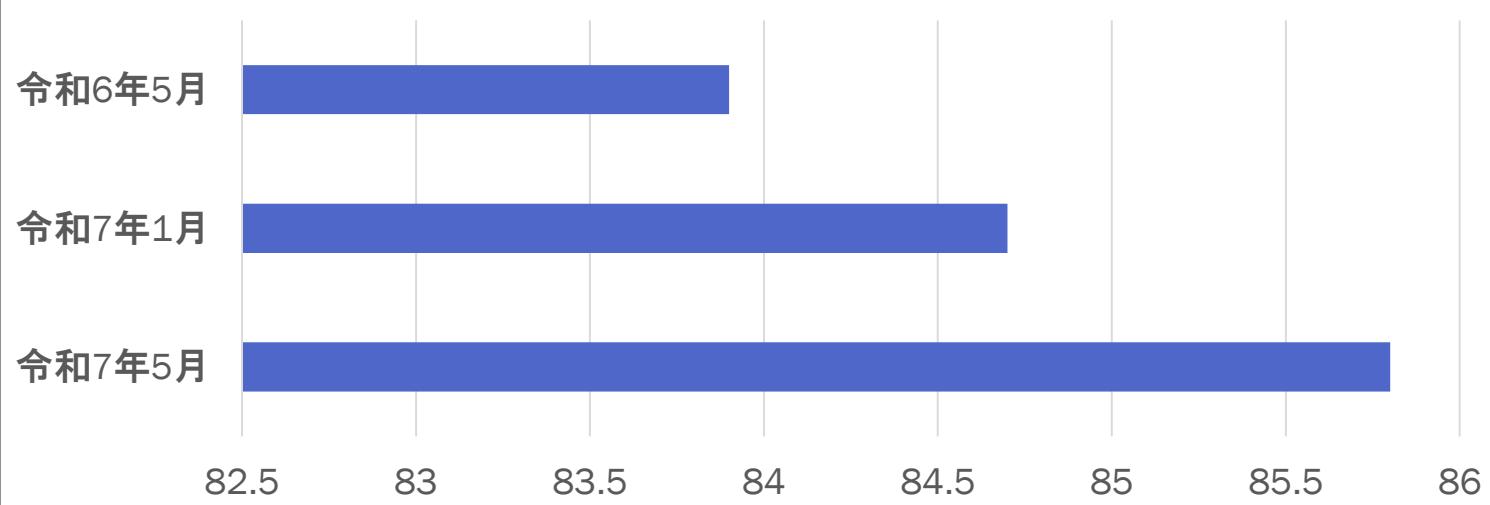
③令和7年度3回目 (R 7. 5)

回答数 ①7,022人

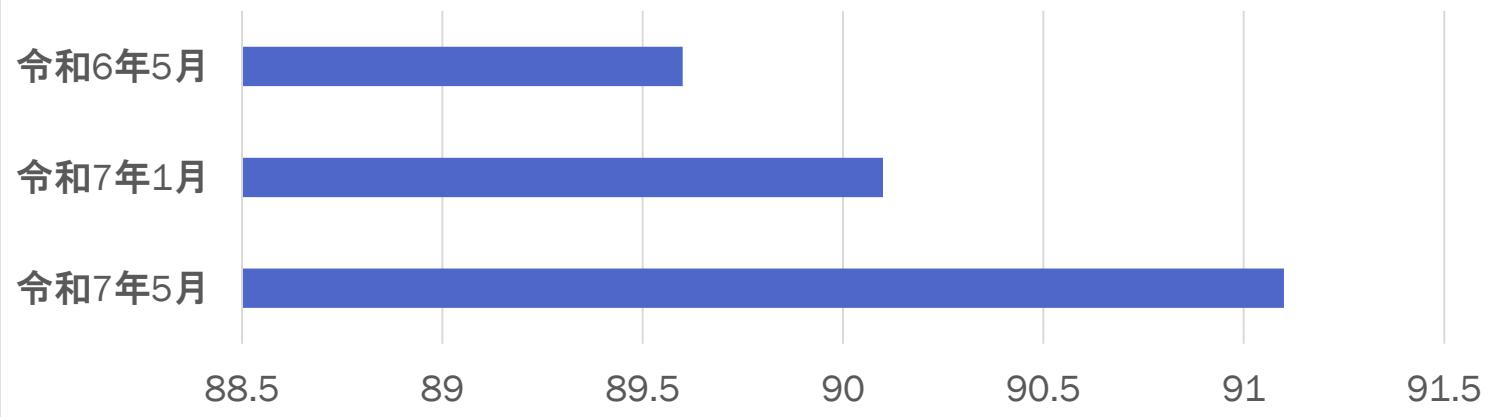
②6,402人

③7,595人

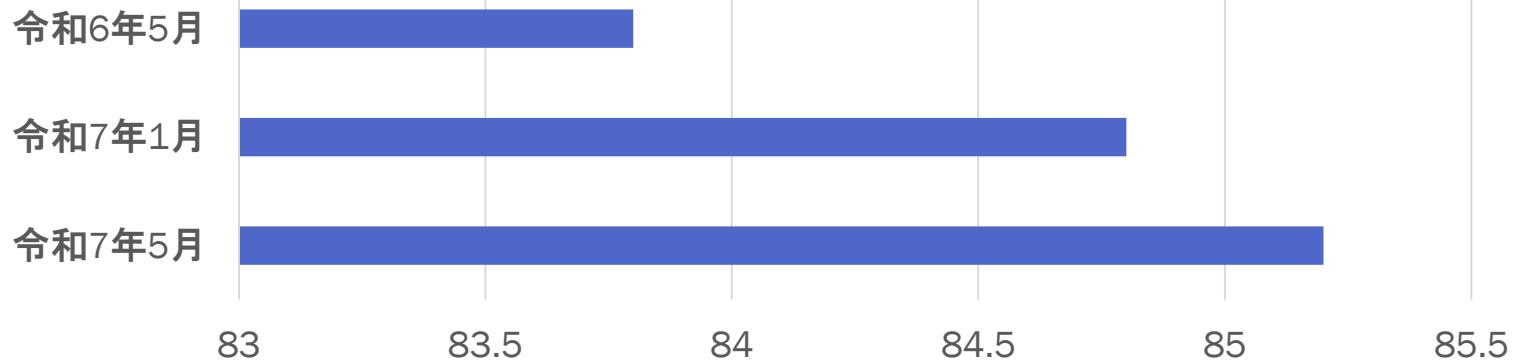
自分には良いところがあると思いますか



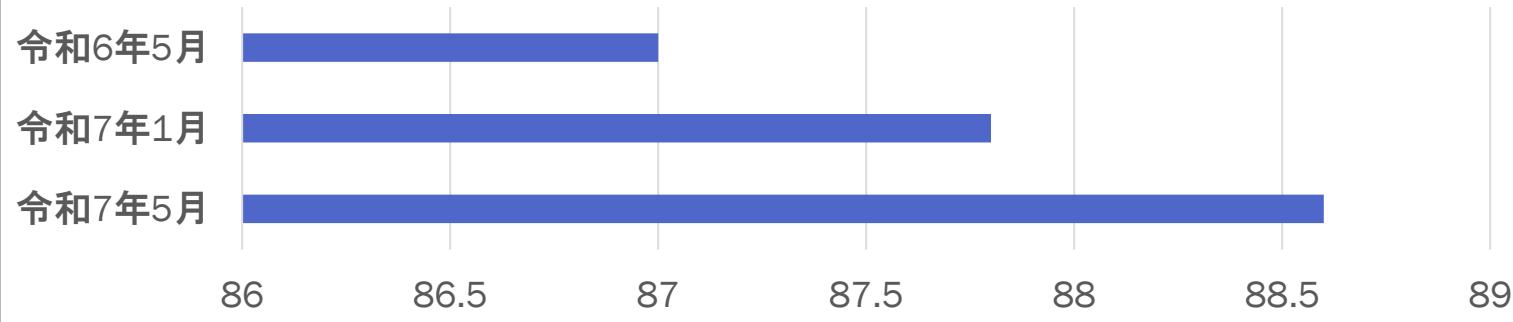
すすんで友達のよいところを見つけようとしていますか



友達と違う考えだったとしても、
自分の意見を伝えていますか



学級活動の話し合い活動で友達の意見に賛成
したり付け足したりして、友達の意見の
よさを認め生かしていますか



今後の課題

- ・持続可能な取組
- ・教員の指導力、校長の学校経営力のさらなる向上
- ・児童・生徒の健全育成と
話し合い活動の力のさらなる向上

など